

キャリアデザイン事業 市民の自主調査研究グループ育成

1. 目的

キャリアデザインによるまちづくりにおいては、自らの住む地域を知って地域コミュニティの一員としての自覚と誇りをもち、さらに能動的に動く自立した市民が望まれる。そのあり方の一つとして、自らの住んでいる地域の文化や歴史に目を向けて自主的に調査研究活動を行うグループが挙げられる。この市民の自主調査研究グループを育成していくことが当館の事業の大きな柱の1つとなっている。

野田市には野田市文化団体協議会をはじめとして、市民の文化団体が数多く存在するが、自主調査研究グループはそれら既存の団体とは異なり、当館で開催される事業をきっかけとして発足する。博物館や市民会館を拠点として活動を行い、その研究成果を企画展などの形で博物館に還元していくなど、協働でまちづくりを担うパートナーとして位置づけられる。

博物館はグループの育成のために、地域の歴史・文化・自然に関する連続講座を実施し、講座終了後に活動の継続を呼びかける。また、連続講座の講師も市民の学識経験者に依頼し、グループが結成された際は講師がリーダーとなって主導的な役割を果たしてもらおう。学芸員は人材バンクに登録された情報をもとに同じような興味関心を持つ人たちを集めたり、研究発表の場を確保するなどのサポートを行う。

2. 農業に関する自主調査研究グループの活動履歴

メンバーの不足により、本年度も活動休止中である。

3. しつらいに関する自主調査研究グループ「室礼サロン・たのしい和」の活動履歴

今年度も市民会館和室のしつらいと年中行事の学習を行ったほか、昨年度に引き続き旧花野井家住宅のしつらいを実施した。また、10月で3年間の博物館によるサポート期間が終了することを受けて、自主的な会として活動していくための組織づくりを話し合ったほか、これまでの活動の発表の場として野田市文化祭（各種行事の部）に参加し、市民会館を会場に四季のしつらい飾りを各部屋に展示することとした。残念ながら台風のため市民会館が休館となり、来館者に披露することはできなかったが、これまでの活動の中で考案された様々な飾りが市民会館を彩った。博物館によるサポート終了後も独立した会として独自の勉強会や飾り制作などを行うほか、市民会館の月ごとのしつらいを定期的に行っていたおり、来館者からも好評を博している。

4. 展望と課題

市民の自主調査研究グループの育成事業は今年度で終了となるが、今後は市民の文化活動報告展や、2017年より開始した地域づくりネットワーク構築事業の中で、既存の団体の活動成果を発表する場として活用してもらおうなど、市民団体との連携を図ることを計画していきたい。



野田市文化祭での四季のしつらい 人日（左）、上巳（右）

キャリアデザイン事業 地域づくりネットワーク構築

1. 目的

キャリアデザインによるまちづくりにおいては、自らの住む地域を知って地域コミュニティの一員としての自覚と誇りを持ち、さらに能動的に動く自立した市民が望まれることから、当館では市民に向けてキャリアデザイン事業を行ってきた。

野田市内にある運営主体や運営形態の異なるさまざまな文化施設では、それぞれが持つ人、資料、情報等といった多様な資源を活用することで多くの市民に利用されてきた一方で、その運営面では施設ごとの個別的な活動や特定の事業での連携に留まっていた。これは、施設同士が恒常的に繋がりを保つための枠組みが存在していなかったためであり、本事業では、新たに設ける本ネットワークを土台に市内の文化施設等と協働して“地域づくり”に取り組んでいく。

各施設が持つ情報や施設の運営を行う中でこれまでに蓄積してきた知識や経験を共有し、各施設の特徴を活かした取組を行っていくことで、利用者の利便性の向上を目指す。

2. 今年度の活動内容

(1) ネットワークマップの作成

昨年度の連絡会で決定した、施設や周辺地域を紹介するマップについて、市観光協会の発行しているマップや、他地域で発行されている歴史・文化に関する散策マップを元に、コンセプトや掲載内容の検討を行った。5つのコースを設定し、「城下町」(関宿北部)や「醸造」(野田本町通り周辺)などのテーマを定めて紹介することとした。また、各施設が持つ古写真や資料なども使いながら、歴史や文化を感じながら散策できるようなものにするのを心掛けた。話し合いを元に当館で原案を作成し、連絡会の中で意見交換を行い修正をしていったほか、随時各館よりメールなどにより追加情報や古写真等のデータ提供を受けながら制作を進めていった。

当初は年度内に発行する予定であったが、掲載予定であったキックマンもの知りしょうゆ館が改修工事に入ったことや、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、発行を延期した。もの知りしょうゆ館の再開を目的に発行する予定である。

○連絡会日程

月 日	内 容	参加施設
5月24日(金)	マップコンセプト及び掲載内容の検討	9館
8月30日(金)	マップ掲載コース及び紹介場所の検討	8館
11月15日(金)	マップレイアウト及び内容校正	7館
1月17日(金)	マップレイアウト及び内容校正	7館

3. 今後の展望

マップの骨格は出来上がったが、作って終わりではなく次なるステップへの足掛かりとしていくため、マップの完成後は、それを活用したまち歩きツアーを企画していくこととなった。こうした共通の事業を行うことで、施設間の連携を深め、ゆくゆくは同じテーマでの合同展覧会の開催など、博物館などの文化施設ならではの連携事業にも取り組んでいきたい。

寺子屋講座 まちの仕事人講話・芸道文化講座

実施日：毎月1回(日曜日)

時 間：各回とも13時30分～15時30分

場 所：市民会館

資料代：大人500円、学生(高校生以上)250円、中学生以下無料

※実施日、時間、場所はいずれも通常の場合。各回の詳細は2.内容に掲載。

事業区分：自主事業

1. 概要と目的

前指定管理者が設立当初より開催し、博物館自主事業という形で継続実施している講座である。まちの仕事人講話では、「仕事とは何か？」をそれぞれの仕事道の経験者に直接語ってもらい、仕事や職業についての理解を促す。芸道文化講座では地域の文化を話題にするばかりでなく、国内や海外の文化を題材にして、文化がもつコミュニケーションの可能性を描きだすことを目的とする。各回異なる仕事、テーマについて講義していただく講師は野田市民を中心に依頼している。また講座の最後には懇談の時間(約30分)を設け、講師と参加者、あるいは参加者同士のコミュニケーションの時間をとっているのが特徴である。

2. 内容

第169回 芸道	「いにしへの武術に学ぶ、身体の動かし方」	
講 師	木々津正史氏(動作術稽古会 会員)	
7月21日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 18人
第169回 仕事人	「人生最高の一日のために～結婚式のウラ側、のぞいてみませんか～」	
講 師	小森あゆ氏(a'pocket wedding 代表/ウエディングプランナー)	
8月18日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 9人
第170回 仕事人	「表具師が語る、茶道と表具の深～い関係～文化財修復ってどんなお仕事?～」	
講 師	田中正武氏(九代目祐正庵/東京都伝統工芸士/現代の名工)	
9月15日(日)	市民会館 松・竹・梅の間、松樹庵	参加者 16人
第170回 芸道	「ドール文化の現在～ドールセラピーが日本を救う～」	
講 師	バロン西田氏(ドール愛好家/ネットラジオジャーナリスト)	
10月20日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 20人
第171回 芸道	「クイズで野田市の自然・文化・歴史を知ろう！」	
講 師	野田もの知り検定企画実行委員会	
11月24日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 5人

第172回 芸道	「楽しい物理実験 -196℃の世界」	
講師	関一氏(東京理科大学理工学部物理学科非常勤講師)	
12月15日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 9人
第173回 芸道	「凧に魅せられて～世界の中の日本の凧～」	
講師	石栗照平氏(日本の凧の会 会員)	
1月5日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 11人
第171回 仕事人	「文化財をのこす・まもる仕事～ビリケンさんの修復!文化財を食べる虫?～」	
講師	松井佐織氏(合同会社文化遺産 Lab. 代表)	
2月9日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 11人
第172回 仕事人	「人生、いつも挑戦～新しい出会い、それが運命を変え人生を築くる～」	
講師	中村典子氏(食文化・料理研究家)	
3月8日(日)	市民会館 松・竹・梅の間	参加者 中止

3. 振り返り

前指定管理者からの引継ぎ・準備期間を要したため、本年度は7月からの実施となった。実施回数はこれまでの月2回(まちの仕事人講話・芸道文化講座、各1回)から月1回へと変更したため、まちの仕事人講話・芸道文化講座のどちらかに偏ることなく実施できるよう気を配った。3月に予定されていた講座が新型コロナウイルス感染症対策のため中止となったのは残念であった。

本年度は、回数は少ないながらも各回充実した講座を提供できたと感じている。まちの仕事人講話では、2018年度に市民会館を会場として行われた結婚式を担当されたプランナーや、茶室や掛軸などの修復を手がける表具師、利根運河のビリケン像を修復した方など、いずれも市民会館や茶室、あるいは地域に深く関わりのある方々に講師を依頼し、会場の特性を生かした講座を行うことができた。

芸道文化講座では、ドール文化などのサブカルチャーに関するものや、クイズを通して野田市のあれこれを学ぶもの、身体を動かす講座、物理実験、凧作りなどの大人から子どもまで楽しめる幅広いジャンルの講座を提供できた。特に体を動かす講座や工作を伴う講座では講師と参加者との距離が近くなり、活発な交流が行われていたのは好ましい。

一方で、参加者からは「若い人にも聞いてもらいたい話だ」、「もっとたくさんの人に聞いてもらえたら」という声も聞かれた。寺子屋講座の情報は野田市の市報に掲載されるほか、チラシやホームページにて広報活動を行っているが、若者や子育て世代をターゲットにする場合は、SNSを効果的に活用することが望ましいと考えられる。



第 169 回芸道
「いにしへの武術に学ぶ、身体の動かし方」



第 169 回仕事人
「人生最高の一日のために
～結婚式のウラ側、のぞいてみませんか～」



第 170 回仕事人
「表具師が語る、茶道と表具の深～い関係
～文化財修復ってどんなお仕事？」



第 170 回芸道
「ドール文化の現在
～ドールセラピーが日本を救う～」



第 171 回芸道
「クイズで野田市の自然・文化・歴史を知ろう！」



第 172 回芸道
「楽しい物理実験 -196℃の世界」



第 173 回芸道
「凧に魅せられて～世界の中の日本の凧～」



第 171 回仕事人
「文化財をのこす・まもる仕事
～ビリケンさんの修復！文化財を食べる虫？～」

キャリアデザイン事業
子ども・親子対象の講座

古代のアクセサリー・勾玉をつくらう！

実施日：第1回 5月5日(日・祝)、第2回 8月1日(木)
第3回 8月3日(土)

時間：各回とも10時～12時

場所：博物館前庭

材料費：100円

参加者：第1回21人、第2回21人、第3回17人

事業区分：委託事業



1. 内容

小学生を対象に、滑石を材料にした勾玉作りの講座を実施した。

2. 振り返り

5月は子どもの日にちなんだ子ども向け事業として、8月は小学生の夏休み期間に合わせて実施した。例年よりも参加者数は少なめであるが、リピーターも多くゴールデンウィーク・夏休みの恒例イベントとして定着している。このような講座をきっかけとして博物館に親しんでもらいたい。第3回目は博物館実習生によって講座が進行されたが、説明や対応ともにスムーズであった。

土器の拓本しおり作り／ちょっと昔の暮らしを体験

実施日：12月22日(日)

時間：10時～15時

場所：野田市北部公民館

参加費：無料

参加者：34人

事業区分：委託事業



1. 内容

市内の児童・生徒が郷土に対する理解と関心を高めることを目的に、「子どもたちを対象とした教育普及事業」を行う。今年度は野田市北部公民館との共催による冬休み中の小学生を対象とした「冬休み子どもの学び舎 書初め教室と博物館出前講座」の中で、「土器の拓本しおり作り」と「ちょっと昔の暮らしを体験」を行った。

2. 振り返り

土器の拓本体験では、はじめに縄文原体と粘土を使って縄文土器の模様の付け方を学んだのち、実際に土器片の模様を写し取る体験を行った。ちょっと昔の道具体験では、黒電話や火のし、炭火アイロンといった道具に触れるだけでなく、かつお節を削ってみたり、石臼で大豆を挽いたりと様々な体験ができるように工夫した。親世代でも「見たことはあるが使ったことはない」、「昔うちにあった」という声が聞かれ、親子で楽しめる講座となった。

職場体験受入

期 間：随時

件 数：3件

事業区分：委託事業



1. 概要と目的

市教育委員会が平成17年度より取り組んできた「キャリア教育実践プロジェクト 中学生の職場体験」への協力として、体験や見学(インタビュー)の受入れを行った。博物館職員の基本的な業務内容を知り、体験してもらうことで、この仕事で働くことの意義について学んでもらうことが目的である。

2. 内容

月 日	学校名、学年	人数	内 容
5月15日(水)、16日(木)、17日(金)	野田市立第二中学校2年生	1人	キャプションパネル作り、資料写真の撮影、軸資料や古文書の扱いや整理等
6月19日(水)、20日(木)、21日(金)	野田市立南部中学校2年生	6人	資料整理や写真撮影、市民会館紹介パネルの作成、消防訓練への参加等
6月20日(木)、21日(金)	野田市立北部中学校2年生	5人	資料整理や市民会館紹介パネルの作成、消防訓練への参加等

3. 振り返り

昨年度、一昨年度と1校ずつの受入が続いたが、本年度は上記のとおり3校の受入となった。当館では、短い期間のなかで学芸員という職業を体験してもらうために、できるだけ学芸員の日頃の業務内容と近いものになっている。今年度もくずし辞典を使いながらの文書資料目録作成や、資料撮影を体験してもらったが、扱ってもらった資料の一部は、今年度中に開催した展示に出陳したのものもある。資料整理だけでなく、市民会館の見どころを紹介する新聞を作ってもらい、パネルにして市民会館内に掲示をした。普段、職員が目にも留めないような部分が紹介されていたりと、中学生ならではの視点で作成されていた。また、南部中・北部中の生徒は、実施日が当館で年2回実施する消防訓練と重なったため、職員に交じって訓練に参加した。中学生にとって職場体験先での消防訓練は意外だったかもしれないが、火災による文化財の焼失は度々ニュースで取り上げられており、決して他人事ではない。次年度以降も、短い期間のなかで学芸員という仕事を理解してもらえよう、カリキュラムを工夫していきたい。

博物館実習受入

期 間：7月27日(土)～8月4日(日)の8日間

※7月30日(火)は休館

人 数：4名(川村学園女子大学、昭和女子大学、大正大学、東洋大学)

事業区分：委託事業



1. 内容

大学の学芸員養成課程からの要請に応じて学生を受け入れた。資料整理や目録作成のほか、期間中に開催される講座の準備や運営に関わってもらうなど、学芸業務の補助的な実習を行った。

月 日	午 前	午 後
7月27日(土)	ガイダンス	昆虫標本の防虫剤交換及び写真撮影
7月28日(日)	勾玉講座準備	勾玉講座準備
7月29日(月)	市内史跡等の見学	土器の写真撮影及び保存箱の作成
7月31日(水)	古文書資料の取扱学習及び整理	醤油徳利等整理
8月1日(木)	勾玉講座スタッフ	市民会館撮影利用に関する勉強会
8月2日(金)	市民会館撮影利用者向けパネル作成	市民会館撮影利用者向けパネル作成
8月3日(土)	勾玉講座スタッフ	市民会館撮影利用者向けパネル作成
8月4日(日)	市民参加型展示に関する講義	古文書資料の目録作成

2. 振り返り

当館では、博物館実習のために特別なプログラムを組むというよりも、学芸員が日常的に行っている業務を一緒に行うことを重視している。

今年度は、例年実施している期間中に行われたイベントのスタッフ業務や資料を取り扱う業務のほか、近年市民会館で増加しているコスプレ等の撮影での利用者に対して、登録文化財である市民会館の価値を伝えつつ、安全に利用してもらうための説明パネルの作成を行った。

今年も昨年同様4人という比較的少人数での実習となったため、指導する学芸員も目を配りやすく、充実した実習を行うことができた。資料等の取り扱いでは、昆虫標本、土器、古文書、醤油徳利等の陶器類など、幅広い資料を取り扱うこととなり、郷土博物館の収蔵している資料の多様性を感じることができたのではないと思われる。また、利用者向けのパネル作成では、勉強会をもとに伝えるべき内容を整理し、イラストレーターなどを使用してデザインの検討を行った。伝えたいことをターゲットに適切に伝えるためにはどのようにしたらよいか、これは展示などでも必ず考えていかなければならないことであり、その点においてもよい経験になったのではないと思われる。

キャリアデザイン事業

小学生を対象とした共催事業

オープンサタデークラブ (いけ花、日本舞踊) クラブフェスタ 2020

オープンサタデークラブ

指 導：野田いけばな協会、野田日舞連盟

実施日：4月20日、5月18日、6月1日、15日*1、7月6日、
9月7日、21日、10月5日、19日、11月2日*2、16日、
12月7日*1、1月18日、2月1日(いずれも土)

*1 いけ花のみ実施 *2 日舞のみ実施

場 所：市民会館 雪・月・桃の間(いけ花)
松・竹・梅の間(日舞)

参加者：延べ193人(いけ花) 延べ109人(日舞)



クラブフェスタ 2020

実施日：2月14日(金)、15日(土)、16日(日)

場 所：(展示の部)市民会館全館

14日 7クラブによる展示

15日、16日 8クラブによる展示

(発表の部*3)博物館1階展示室

15日10時30分～11時10分 日本舞踊

11時15分～11時45分 ハワイアンフラ

入場者：延べ約1,529人

*3 第37回ミュージアムコンサートとして実施



事業区分：共催事業

1. 内容と目的

オープンサタデークラブは子どもたちの豊かな人間性や社会性を育み、国際社会に生きる日本人としての下地を育む機会を地域社会全体でつくり出すことを目的に、平成14年度より市教育委員会が主催するものである。いけ花、日本舞踊のクラブを昨年度に引き続き実施した。平成18年度まで別会場で行われてきたオープンサタデークラブの展示・発表会を、博物館・市民会館を利用して行った。

2. 振り返り

小学生に和風建築の佇まいの中で花を生ける、あるいは舞を習う以外にも、礼儀作法を学ぶ機会の提供となっている。国の登録有形文化財である市民会館で、日本の伝統文化を学ぶ貴重な機会でもある。

クラブフェスタでは、例年に引き続き日本舞踊、ハワイアンフラの発表会場となり、華やかな衣裳が会場を彩った。また、いけ花や習字など子どもたちの作品を見学する家族連れで会場が賑わっていた。今年は、当館はじめてとなる短歌を含め計8団体の会場となった。

毎月のサタデークラブでは多くの保護者が送り迎えのために来館することもあり、本事業は子どもたちや子育て世代が来館する貴重な機会となっている。帰り際に展示室へ立ち寄り親子連れの姿をみるのできるの嬉しい、今後とも、各クラブを指導する方々との連携構築の機会と捉えていきたい。

市内ガイド事業

期 間：①予約ガイド 随時
②駐在ガイド 土・日・祝日



事業区分：委託事業

1. 内容

市内のガイドボランティア団体「むらさきの里 野田ガイドの会」に委託し、博物館・市民会館を中心とした野田市内のガイドを行った。ガイド予約は市民会館内市民つどいの間にて電話等で受付を行い、ガイドの会が担当者などを手配している。また土・日・祝日にはガイドの会のメンバーが市民会館に駐在し、予約無しに来館者を案内した。

①予約ガイドの実績	73 団体 1,757 人 うち、博物館で受付をしたもの 38 団体 803 人 うち、ガイドの会で受付をしたもの 35 団体 954 人
②当館駐在中のガイド実績	土・日・祝日計 107 日間*で 1,588 人

*10月12日(土)、13日(日)は台風接近のため臨時休館。

2月29日～3月30日まで、新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館。

2. 振り返り

野田市内の史跡・施設・自然をガイドする「むらさきの里 野田ガイドの会」は、野田中心市街地のまち歩きのみならず関宿地区や清水公園などのガイドも手がけている。またガイド料を無料とし、雨天時や高齢あるいは健康上の問題で長時間のまち歩きが困難な訪問者に対しては、市内の見どころの写真を取り込んだスライドショーを上映するなど、幅広いニーズに応えることで、野田の散策を希望する市内外の方々から好評を得ている。ガイドの会のホームページを参考にガイドの予約をする方も多いうで、申込受付時にホームページに掲載されたお勧めコースを指定されることも増えている。博物館ではなく、ガイドの会へ直接申し込むリピーターも多い。

また、同会がガイドコースを予め設定した上で参加希望者を募るまち歩きツアーは第8回目を迎え、11月30日(土)に「野田の紅葉と史跡探訪」が実施され、多くの参加者を得た。3月29日(日)には「路線バスで行こう！歴史のまち関宿へ」が開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。今年度は台風や新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休館によって活動が制限されたものの、実施した事業に関しては利用者から高い満足度を得ている。

博物館ボランティア

期 間：随時

人 数：11人

業務日数：215.5日(半日(4時間)を0.5日として計算)



事業区分：委託事業

1. 概要と目的

平成21年度に導入した博物館ボランティア事業を継続した。博物館の有人化によって、来館者のサービス向上とするほか、博物館にとって有益な情報をボランティアの視点から収集すること、さらにボランティアメンバー自身のキャリアデザインにつなげることも目的とする。

2. 内容

メンバーが、開館時間のうち、9時～13時、13時～17時の4時間ずつの2交代制、1人が週に1～2枠を担当している。展示室の受付(インフォメーションセンター)で、チラシやアンケートの配布、出版物の紹介などを通して、積極的に来館者とコミュニケーションをとっている。月に1回の連絡会では、業務状況の確認のほか、展示の切替え時には、学芸員による説明会を実施している。また館外研修として千葉県市川市の行徳神輿ミュージアムを訪問し、解説員の説明を受けながら職人による神輿の製造工程を見学した。その後、行徳ふれあい伝承館を訪れ、施設概要や展示についての説明を受けた後、ボランティア発足の経緯や活動についてお話を伺った。

3. 振り返り

昨年度と同じ11名体制での活動となった。各人が予定を調整し、博物館が常時有人化するよう努めた。アンケートにはボランティアの親身な対応への評価の声が多く寄せられており、博物館の雰囲気づくりの一助となっている。受付に常駐するボランティアは博物館にとっての「顔」であり、今後も一層の活躍を期待したい。

また、受付や連絡会、研修会への出席率も良く、ボランティア活動に対する各人の意識の高さが窺える。連絡会では日頃の活動の中で感じたことなどについて情報共有や意見交換を行い、館内の案内表示の改善などに役立っている。このような取り組みはボランティアが来館者とのコミュニケーションの中で得た気づきを即座に反映させることができ、より良い施設環境を提供することができるようになってきている。

館外研修では行徳神輿ミュージアムを訪問し、神輿制作の現場を見学した。行徳ふれあい伝承館ではボランティアの展示解説を受けた後、日頃の活動状況についてお話を伺った。来館者への声掛けや展示解説については各自で勉強を行っているといい、地域の人々に支えられている展示施設の事例として興味深いものであった。昨年度、当館の特別展で大杉信仰の展示を行ったこともあり、祭りや神輿の話題では他地域の事例との比較をとってそれぞれの知見を広げることができたようである。

交流事業
学校との連携

学校見学対応、出張授業

期 間：随時
件 数：見学会 7 件

事業区分：委託事業



1. 概要と目的

小学校との連携の取組の一環として、課外授業で博物館見学を希望する学校に対して、博物館・市民会館の館内解説や昔のくらしの道具の体験学習指導等を行った。

2. 内容

見学会

月 日	学校名、学年	人数	内 容
5月10日(金)	野田市立中央小学校特別支援学級	29人	市民コレクション展見学
7月22日(月)	野田市立中央小学校1～6年生(夏休み学び教室)	62人	常設展示及び市民会館見学
9月13日(金)	野田市立中央小学校特別支援学級	30人	昆虫標本の観察
10月10日(木)	柏市立田中小学校3年生	131人	常設展及び市民会館見学、昔の道具体験(火のし・電話機)
10月31日(木)	野田市立中央小学校特別支援学級	26人	勾玉づくり体験
1月20日(月)	野田市立宮崎小学校3年生	70人	常設展及び市民会館見学、昔の道具体験(火のし・電話機)
2月6日(木)	野田市立福田第一小学校3年生	15人	常設展及び市民会館見学、昔の道具体験(火のし・電話機)

3. 振り返り

本年度の見学会は、3年次で学ぶ昔のくらしの単元と、特別支援学級への対応が中心であった。担当教員と学芸員が事前に打ち合わせを行い、当館を訪れることで学ぶことができる内容とするよう意識した。交通手段の制約もあり近隣の学校に限られる傾向が近年続いている。市内の遠方の小学校に対してどのようにフォローしていくかが課題である。特別支援学級に対しては、当館の収蔵資料の昆虫標本を用いた体験の場を提供できた。次年度以降も様々なニーズに答えられるようにしていきたい。

呈茶席

協 力：野田市茶道協会

実施日：第 1 回 7 月 7 日（日）10 時～15 時

第 2 回 2 月 9 日（日）10 時～14 時 30 分

※予定は 10 時～15 時。第 2 回は茶菓子完売のため終了

場 所：市民会館 松樹庵（茶室）

参加費：300 円

参加者：第 1 回 58 人、第 2 回 81 人

事業区分：委託事業



1. 概要と目的

野田市茶道協会の提案で、市民会館と茶室「松樹庵」を活用した茶会を平成 20 年度より実施している。地元の歴史ある茶室と、野田で茶道を通じた文化活動が活発に行われていることをアピールしたいという野田市茶道協会の意向は、当館の施設利用促進や市民交流の目的とも合致しており、同会が茶会の準備及び全般の進行を担い、当館が施設や備品の提供、PR をするという役割分担を行っている。お抹茶と茶菓子が本格的な作法で振る舞われるが、茶道の経験の有無にかかわらず、誰でも席入りできるよう心がけている。

2. 振り返り

開催するたびに次回の開催時期をたずねる問合せが来るなど、茶道協会が野田市文化祭の一環として市民会館を会場として行っている 10 月の市民茶会と合わせて、当館で定期的に行われている茶席として定着していると感じられる。

呈茶席の基本的なスタイルは同じだが、茶道協会の担当者との打ち合わせを行う中で、季節や時節に合わせた趣向を床の間の調度品や茶碗等に取り入れることにしており、7 月は「七夕」、2 月は「観梅」の趣向で開催した。7 月は小雨の中での開催となり参加者数は伸びなかったが、海外からの見学者が参加するなど、日本の伝統文化や和風建築の PR の機会ともなった。2 月は晴天に恵まれ、寒さにも関わらず非常に多くの参加者が訪れ、一時待合としていた和室に入りきらなくなり、急遽別の待合室を追加で設けることで対応した。10 時から 15 時までのイベントであるが、午前中から昼過ぎにかけての参加者が多く、今後はピーク時に合わせて待合室を広めにとるなどの対策も心掛けていきたい。

ミュージアムショップ

ミュージアムショップでミミーマグネット、山中直治童謡曲集 CD、野田かるた、「野田市郷土博物館・市民会館絵はがき」(全 16 種)等の販売を行った。また、展示室において「ドグウのミミーカンバッジ」(全 7 種)をカプセル自動販売機で販売した。

宣伝・広報事業

事業区分：委託事業

ホームページの運営

展覧会、各種イベントに際し随時情報を更新した(URL <http://www.noda-muse.or.jp>)。

《分析と振り返り》

年間を通して、閲覧数の多い上位 10 ページ(ページビュー数の多いページ)は、次の通りである。

1. トップページ (<http://noda-muse.or.jp/>) / 昨年：1 番
2. 市民会館貸し部屋利用案内 (<http://noda-muse.or.jp/guide/roomtolet>) / 昨年：2 番
3. 企画展ページ (<http://noda-muse.or.jp/exhibition/exhibition>) / 昨年：3 番
4. 利用案内 (<http://noda-muse.or.jp/guide/userguide>) / 昨年：4 番
5. 常設展示 (<http://noda-muse.or.jp/exhibition/permanent>) / 昨年：5 番
6. 予定イベント一覧 (<http://noda-muse.or.jp/event/summary>) / 昨年：8 番
7. 2019 年度市民コレクション展 日本刀～古刀から現代刀まで～
(<http://noda-muse.or.jp/6597>) / 昨年：298 番
8. 展覧会関連イベント (<http://noda-muse.or.jp/event/exhibition>) / 昨年：26 番
9. 沿革 (<http://noda-muse.or.jp/about/history>) / 昨年：14 番
10. 館長あいさつ (<http://noda-muse.or.jp/about/preface>) / 昨年：11 番

令和元年度のホームページのセッション数^{*1}は、月平均 3332 と、昨年平成 30 年度のセッション数月平均 2701 に比べて約 1.2 倍の増加となった。ページビュー数^{*2}は、1.1 倍、ユーザー数^{*3}は、1.2 倍と同様の増加となった。特に 4 月 13 日に、ホームページ開設以来、過去最高の 3261 ページビュー / 日のアクセスがあった。そのうち 8 割近くが、検索結果からの流入で、「日本刀野田市」「野田 美術展 日本刀」などのワードでも検索されていた。このことから、TV・ラジオなどのメディア経由等で、多くのユーザーが企画展ページにアクセスされたことが予測される。資料データベースのアクセス数は、セッション数が 0.9 倍、ページビュー数が 1.1 倍、ユーザー数が 1 倍と、ほぼ横ばいとなり、大きな変化は見られなかった。閲覧デバイスは、モバイルが 60.06%、PC が 33.97%、タブレットが 5.97% となっている。一昨年、モバイルからのアクセスが PC の利用率を超え、引き続き、モバイルの比率が増えている。またタブレットからのアクセスは、今年は減少した。

4 月のアクセス数が顕著に増加した要因としては、「2019 年度市民コレクション展 日本刀～古刀から現代刀まで～」の企画に注目が集まったことが考えられる。当日のアクセス数をエリア別に上位から見ると、東京都内が 34.4%、千葉県が 25.2%、埼玉県が 12.4%、神奈川県が 11.1% と、近県からのアクセスが多かった。ニッチな内容であっても根強いファンの方々に周知できれば、今後さらに多くの方に企画展を楽しんでもらえる可能性があると思われる。令和元年度の取り組みとしては、ウェブサイトの常時 SSL 化^{*4}を行い、ウェブサイト全体の安全性を高める対策を講じた。今後は、ウェブサイトの機能面での改善や、オンラインでの企画の周知の方法などを工夫し、より多くの方に楽しんでいただけるサイトを目指していきたい。

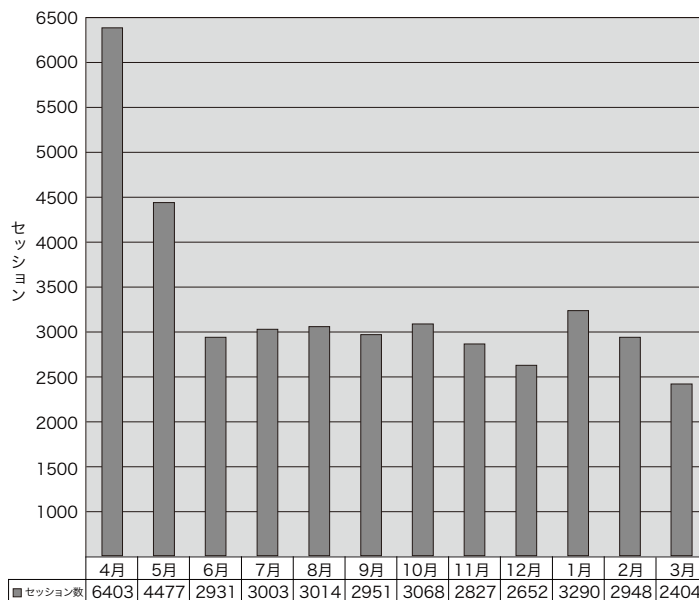
*1 セッション数：ユーザーがサイトに訪れた回数。30 分以内の同一ユーザーの再訪問もはカウントされない。

*2 ページビュー数：ページが表示された回数。

*3 ユーザー数：指定した集計期間において、サイトへの訪問した人数から重複を除いた人数。

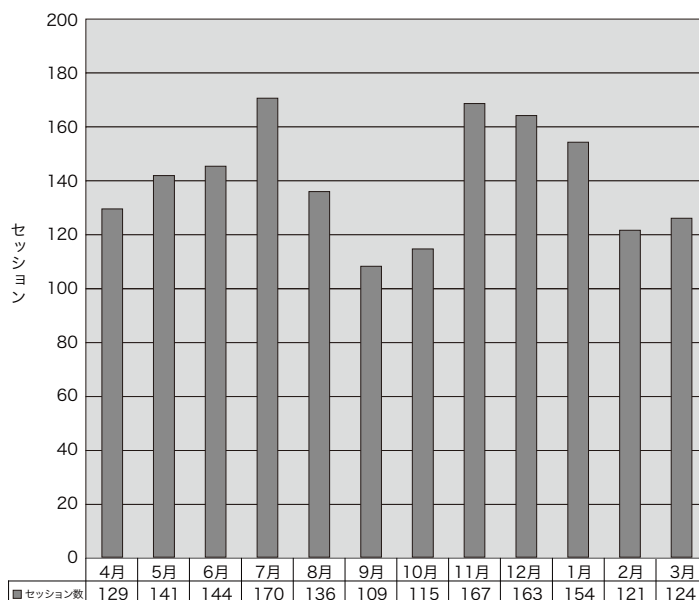
*4 SSL：Secure Sockets Layer の略。ユーザーとサイトの間(または 2 つのシステム間)で送信されるデータを一切読み取れないようにすることで、セキュリティを強化する仕組み。

	セッション	ページビュー	ユーザー
4月	6,403	14,924	4,625
5月	4,477	9,174	3,043
6月	2,931	7,138	2,171
7月	3,003	6,602	2,315
8月	3,014	6,808	2,283
9月	2,951	6,516	2,072
10月	3,068	6,714	2,155
11月	2,827	6,042	2,029
12月	2,652	6,334	1,924
1月	3,290	6,820	2,406
2月	2,948	7,108	2,077
3月	2,404	5,850	1,654
合計	39,998	90,030	28,754



令和元年度 博物館ホームページ(メインサイト)アクセス解析

	セッション	ページビュー	ユーザー
4月	129	459	110
5月	141	367	137
6月	144	474	135
7月	170	520	142
8月	136	290	121
9月	109	262	98
10月	115	223	113
11月	167	594	147
12月	163	541	141
1月	154	345	142
2月	121	337	114
3月	124	982	98
合計	1,673	5,394	1,498



令和元年度 博物館ホームページ(資料データベース)アクセス解析

タウン誌・一般紙への情報提供

市定例記者会見への情報提供(2回)のほか、市報、タウン誌等に定期的な情報提供を行った。また、新聞・テレビ・雑誌の各種取材に協力をした。

○新聞掲載

日付	掲載紙	見出し	取材対象
8月21日	読売新聞	資料増え収蔵場所不足 博物館・図書館 保管・研究体制に課題	郷土博物館、収蔵庫

○テレビ取材

日付	掲載紙	見出し	取材対象
4月12日	J:COM 東葛葛飾	「デイリーニュース」	市民コレクション展 「日本刀～古刀から現代刀まで～」
4月13日	NHK 千葉放送局	「首都圏ニュース」	市民コレクション展 「日本刀～古刀から現代刀まで～」
6月9日	J:COM 東葛葛飾	「デイリーニュース」	市民の文化活動報告展 「あなたの野田を見つけよう」
10月9日 (10月24日放送)	テレビ東京	「日経スペシャルカンブリア宮殿」	市民会館
1月16日 (2月16日、23日放送)	BS朝日	「建物遺産 ～歴史的文化財を訪ねて～」	市民会館

ポスター・チラシの配布

イベント名	ポスター	チラシ
市民コレクション展「日本刀～古刀から現代刀まで～」	A2 250部	A4両面 6,500部
市民の文化活動報告展「あなたの野田を見つけよう」	A2 200部	A4両面 8,000部
特別展「郷土史へのまなざし～博物館誕生のものがたり～」	A2 250部	A4両面 14,000部
企画展「野田に生きた人々 その生活と文化 2020」	A2 200部	A4片面 5,000部
呈茶席 7月	A3 100部	A4片面 1,500部
呈茶席 2月	A3 100部	A4片面 1,500部
寺子屋講座 7月～9月	A3 100部	A4片面 2,000部
寺子屋講座 10月～12月	A3 100部	A4片面 2,000部
寺子屋講座 1月～3月	A3 100部	A4片面 2,000部
勾玉づくり 5月	A3 40部	A4片面 800部
勾玉づくり 8月	A3 40部	A4片面 800部

出版事業

事業区分：委託事業

図録の作成、出版

○特別展『郷土史へのまなざし～博物館誕生のものがたり～』

体 裁：A4 判

頁 数：80 頁

価 格：700 円

部 数：1,000 部

年報紀要の作成、出版

○野田市郷土博物館 市民会館

年報・紀要 第12号 2018年度

体 裁：A4 判

頁 数：116 頁

価 格：400 円

部 数：700 部



